

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

② 施設・事業所情報

名称：苗場保育園	種別：認可保育所		
代表者氏名：本田 りえ	定員（利用人数）：68名（77名）		
所在地：横浜市泉区下和泉1-10-10			
TEL：045-801-8801	ホームページ：izumi-naeba.net/naeba/		
【施設・事業所の概要】			
開設年月日 2005年4月1日			
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 いずみ苗場の会			
職員数	常勤職員：	18名	非常勤職員 24名
専門職員	保育士	28名	調理員 4名
	看護師	2名	
	栄養士	2名	
施設・設備の概要	乳児室（0～2歳児室）	3室	調理室 1室
	幼児室（3～5歳児室）	3室	沐浴室 1室
	事務室	1室	トイレ 6か所
	職員休憩室	1室	
	木造平屋建て 延床面積	169.58㎡	園庭 592.67㎡
	鉄筋2階建て 延床面積	320.63㎡	

③ 理念・基本方針

【保育理念】

「すべての人々はこの世に必要ながあって生まれてきている」という思いのもと、どんな子どもも分け隔てなく受け入れ、ともに生活し充実感のある、楽しい生活とします。

【保育方針】又は【基本方針】

「よく食べること」「よく遊ぶこと」「育ち合うこと」の3つを大事にしている。食事は、農薬を使わない安全な食材を使い給食・おやつをすべて自園調理で提供している。

遊びが中心の保育の中で、大人の存在をいつも子どもたちが感じながら、たくさんの人と関わり合って、人を恐れず、人が大好きな子供たちに育つようになってほしい。

また、たくさんの大人や友だちとともに自然に触れながら、体と心を動かす遊びを通して生きる意欲・力・学び合うことを大切にしていく。

そして、子どもをいつも真ん中に置きながら、職員、保護者、地域の方々と一緒にともに大人も育ちあえる関係、環境作りをしていく。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

【立地および施設の概要】

苗場保育園は「社会福祉法人いずみ苗場の会」が運営する保育所で、現在0～5歳児クラス77名が在籍しています。横浜市泉区に立地し、戸塚区との境界付近にあるため、横浜市の両区の行政機関と関係の深い保育所となっています。横浜ドリームランド跡地に建設された戸塚区の「ドリームハイツ」に隣接しており、最寄駅はJR戸塚駅、小田急江ノ島線・相鉄いずみ野線の湘南台駅、地下鉄ブルーライン下飯田駅で、バスが交通手段です。子どもの登降園での送り迎えは自家用車使用が多く、隣に広い駐車場も完備しています。運営法人は、すぐ隣の小規模保育事業所「えんがわ」、近隣の民営化で運営を受け継いだ「俣野保育園」と、相鉄・緑園都市の「緑園なえば保育園」と分園の「あかちゃんの家」を運営しています。また、障がい者施設や放課後等ディサービスなどを運営し、地域の福祉事業に広く貢献しています。

【園の特徴】

保育方針の一つに「育ち合う」を掲げています。これは「子ども」を中心にして、「保護者」「保育士」、さらには「地域の人々」も含めた子ども共々の育ちを意味しています。そのため全体的な計画では地域支援に重点を置き、起伏にとんだ広い園庭での「園庭開放」、育児講座、あったかコンサート、子育てサロンの開催等、数多くの支援策を盛り込んで保育を進めています。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年4月1日（契約日） ～ 2022年1月30日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（2016年度）

⑥ 総評

◇特に評価が高い点

1. 「わらべうた」を通して共に育ち合う保育の実践

園では、岩手県遠野地方に伝わる日本古来の「わらべうた」による保育をすすめており、人と人との関わり合いを大切にしています。「赤ちゃんとは顔を見て声をかけるところから会話が始まる」と考え、古くから伝わる「わらべうた」を口ずさみながら、手踊り、指踊りを加えて赤ちゃんとのコミュニケーションを取るスタイルを保育の基盤に置いています。

0歳児からおむつ替え等生活の中にわらべうたを取り入れ、保育者と子どもが一対一でしっかりと目を合わせ、わらべうたを通じて子どもと関わり合い、気持ちを通わせています。

2. 充実した食育活動

「食は生命」と考えて、食べることを大切にしています。できる限り無農薬・低農薬の安全な食材を選び、食をとおして子どもたちが五感を磨く経験ができることを目指しています。食育活動では野菜洗い、皮むき、米とぎ等多くの食材に触れる機会をつくり、食への関心が持てるようにしています。

給食の献立に力を入れています。七夕会にそうめん、お月見に白玉団子、鏡開きにおしるこ、節分にイワシの丸干し、春分の日にぼたもち等、季節感や食文化に触れるメニューを多く取り入れています。また、園庭でサンマを焼いたり、収穫したサツマイモを焚火で焼き芋にして楽しんでいます。

年長児は、例年山形県に田植え・稲刈りの体験に出かけています（今年度は横浜市内で実施）。保育室前のバケツでも稲を育て、コロナ禍でも山形県のコメ農家の方と

オンラインで交流しています。

3. 保護者への丁寧な園内生活情報の伝達

園だよりには子どもたちのエピソード・会話・クラスの様子が丁寧に書かれており、保護者は我が子のことだけでなく園全体で育ちあう様子を実感することができます。毎年、職員や子どもたち全員が寄稿して文集を作成しています。

◇改善を求められる点

1. 保育所としての自己評価の実施

園では、本年度末に初めて「利用者アンケート」の実施を予定しています。年度末の利用者アンケート結果及び職員の自己評価を基に、保育所としての自己評価を行うことが期待されます。

2. 不審者対策などの安全確保への取り組み

保護者アンケートでは、「不審者対策などの安全確保の取り組み」について不安の声が寄せられています。現状の園の出入り口のセキュリティ体制について、不審者対策上からも再検討が望まれます。

3. 人事考課制度の明確化

現在、運営法人では「人事考課制度基準」を検討中です。「人事考課制度基準」を明確化し、キャリアパスに基づき職員が将来の姿を描くことができるような仕組みづくりの早期確立が期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

苗場保育園としては、平成27年度以来3回目の受審となります。自身としては今年度4月より園長となり、初年度の取り組みではありましたが、改めて今まで苗場保育園の中で大事にしてきたものの確認と、今の自分たちの取り組みを確認し合うことができました。また、その中で自分たちの職場の良い点や改善すべき点を確認できたことも大きな意味のあることでした。

全職員と一緒に考え共有できたことは今後の原動力につながる大切な経験だったと思っています。

また今年度も、新型コロナウイルスの感染予防対策を考えながら、これまでよりも保育の内容に変化を加え、行事の工夫なども行いながらの年でもありました。そのような大変な時期に評価してくださいましたナルクさん、夏の忙しい中アンケートにご協力頂いた保護者の皆様には心より感謝いたします。アンケートでいただいた意見をもとに今後の運営、環境づくりに努めていきたいと思っています。

これからも子供を中心に置きながら、「子供と一緒に」保護者の皆様との関係づくりも深めていきたいと思っています。

苗場保育園 園長 本田 りえ

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり